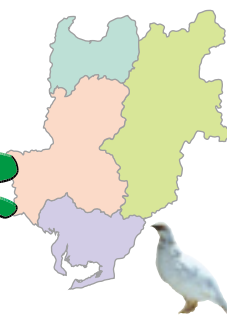




広報

中部の森林

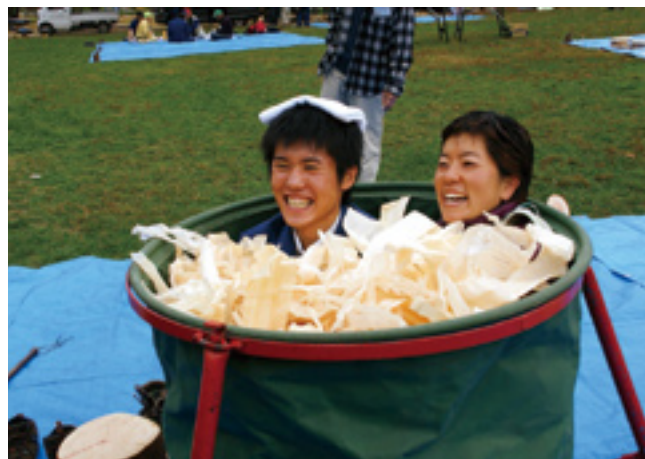


中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



「かんなくずプールで木とふれあう来場した市民」

森・ふれあいフェスタ

～自然と遊ぼう 森に学ぼう～を開催

(P4に関連記事)

主 な 項 目	○ 平成21年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催…………… P2 ○ 民・国連携 …………… P2～4 ○ 風景紀行「ハケ岳」…………… P8
---------	--

平成二十一年度 国有林野等所在市町村長 有志連絡協議会を開催

〔企画調整室〕十一月六日、松本市内において、平成二十一年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催しました。

会議には、管内十ブロックを代表する市町村長等、林野庁から奥田職員・厚生課長及び中山水源地治山対策室長、当局から城土局長、竹林次長、関係部長・課長等が出席しました。

冒頭、城土局長から、日頃の業務運営等への支援・協力に対する御礼を述べるとともに局が取り組んでいる森林整備、災害対策、鳥獣被害対策等について説明し、続いて奥田職員・厚生課

長から、中央情勢についての説明等がありました。

意見交換では、各市町村長からそれぞれの実情を踏まえ、最近深刻になっているカシノナガキクイムシ等の被害についての活発な意見をはじめ、森林整備や治山事業の推進、地域振興への期待、官行造林の取扱い等、多岐にわたる発言があり、国有林の市町村に対する深い関わりと大きな期待が感じられました。

中部森林管理局では、伺った意見等を踏まえ、引き続き、開かれた「国民の森林」として適切に国有林野を管理経営していくこととしています。

なお、各ブロックで、次のとおり国有林野等所在市町村長有志協議会が開催されました。

(※は、各市町村に出向き訪問して実施)

愛知 県	木曾 川 ※	岐阜 地区	飛騨 地域※	木曽 地区	南信 地区	東信 地区	中 信 地区	北 信 地区	富 山 県	ブ ロ ッ ク	開 催 日
九月二十八日(月)	九月二十八日(月) ～十月十三日(火)	九月二十九日(火)	九月十五日(火) 九月十六日(水) 十月二十六日(月)	九月三十日(水)	八月二十七日(木)	十月六日(火)	十月七日(水)	十月十四日(水)	七月二十九日(水)		

民・国連携

木づかい推進月間

〔販売課〕中部局では、「木づかい推進月間」が展開されている十月期において、同時期に強調月間を迎える、国が提唱する「美しい森林づくり推進国民運動」や長野県が提唱する「ふるさとの森林づくり県民運動推進強調月間」と合わせ、民国連携による森林づくりへの参加や理解を深めていただくことなどを目的に、長野林政協議会活動の一環としてパネル展示等を実施しました。

これは、木づかい推進月間中の新たな取組として行ったもので、十月一日から十一月一日までの間、長野駅前ビルの「MIDORI」五階特設会場において、森林の働きや役割、地域材利用や国有林の取組についてパネル、フレット、パネルによるPRやNPO法人等による間伐材レゴブロックによる親子工作教室と紙芝居、地域材利用相談会などを開催し、森林の大切さや地域材の利用などについての普及啓発に努



木づかい推進月間ポスター



パネル展示風景

めました。

また、十月三十一日には、長野県木材青壮年団体連合会主催による木工工作コンクールの表彰も実施され、「花馬祭り」を題材に中部森林管理局長賞を受賞した小学五年生の勝野仁美さんには、森林整

備部長から賞状の授与が行われました。今後においても、木づかい推進月間などには、民国連携によるより効果的な活動を引き続き実施していくこととしております。

『美しい森林づくり in 飛騨』

を推進

〔飛騨署〕 昨年から、飛騨森林管理署、飛騨農林事務所、地元市役所、森林組合が協働し、民有林所有者を中心とした地域の人達に森林整備推進を呼びかける催しを実施しています。

今年も、九月二十七日、高山市国府町を会場に「美しい森林づくり in 飛騨国府」を開催し、市内荘川町で一物造林組合が実施した計画的な路網開設と高性能林業機械による素材生産の事例が三島潔組合長から発表があり、続いてひだ高山森林組合からの利用間伐実例紹介や、高山市林務課から森林整備に関する支援施策等の説明、そして「利益を生む林業を目指して」と題してのパネルディスカッションを実施しました。

パネルディスカッションでは間伐材の有効利用としてペレット原料としての受け入れが始まったこと、間伐は実施する時期が林のその後の生育に大きく影響することなどが出席者から紹介されました。

その後、国府町地内の作業地へ移動し、

高性能林業機械による間伐の様子を見学しました。

十月三日には、飛騨市で初めて「美しい森林づくり in 飛騨市」が古川町を会場に開催し、この地域で熱意を持って林業経営を続けられている国府町の木戸脇進氏と宮川町の井畑萬氏両名による体験発表がされ、木戸脇氏は早期から間伐を実施し、伐採率も強めに実施することが森林造成上はもちろん、経営上も有効であると話され、井畑氏は自家山林のスギ林の間伐を実施した収支等を公開されながら、今は補助金が拡充されていて収入にも繋がった、今まで育ててきた林を健全な状態に整備して次代に送るチャンスと話されました。お二人の熱心な話に参加者は聞き入り、大変参考になったと好評でした。

続いて飛騨農林事務所と飛騨市農林課から県・市の森林整備推進に向けた取組や施策等の説明があり、その後、飛騨市森林組合が実行中の間伐作業地へ移動



高性能林業機械による間伐作業

し、高性能林業機械による間伐作業を見学しました。

この二つの催しにはそれぞれ八十名、九十名の参加があり、有意義なものとなりました。

低コスト・高効率作業システム

現地検討会の開催

〔販売課〕 世界的な不況による住宅着工減少の中にあっても、合板や集成材は積極的に利用拡大が進んでおり、国産材の復活の兆しも見えてきています。しかし、価格上昇は望めない中で、収益を確保し、経営として成立する林業のモデルを示していくためには、低コスト・高効率の作業システムを定着させていく必要があります。

当局の今年度の取組の一つとして、全署等の実務担当者及び民有林関係者を対象に、十月十五日・十六日にかけて木曽森林管理署奈良井国有林で、局長はじめ六十名余りが出席して現地検討会を開催しました。

講師には、低コストで壊れにくく搬出効率が高い路網の指導で有名な森杜（もりもり）産業の田邊由喜男氏と、林野庁業務課から鶴園企画官らの出席をいただきました。

田邊氏からは、路網開設での新工法「スイッチカーブ」（まだ名称は確定していない）を主体に、今までカーブを作れ



新工法「スイッチカーブ」の指導を受ける参加者

ないと考えていた箇所にもカーブができることを実演・指導いただきました。鶴園企画官からは、実際にスイッチカーブを計画するために、竹などを使用して作設前に現地にイメージを描き、どの様に作設されるのかを指導していただきました。講師にも恵まれ有意義な検討会になりました。

当局の低コスト・高効率作業システムの普及は、全国に遅れています。今年度各署等の実施箇所を回った様子では、事業体の取組も進んできています。この流れを更に加速していくよう、今後の各署等の取組に期待しているところです。

なお、田邊氏の実演はDVDを作成し各署及び参加した民有林関係者等に配布しており、有効な活用を願っています。

特定流域総合治山事業地の

視察

「木曽署」十月十六日、塩尻市贅川で塩尻市議会議員に治山事業の現地説明を長野県と合同で実施しました。

平成十七年塩尻市と榑川村の合併により、同市に存在しなかった国有林が、新たな市面積の二割を占めることになり、これまで旧塩尻市では国有林と関わる機会が少なく、国有林の役割があまり知られていませんでした。今回の説明には議員の皆さんに参加していただき、平成十八年七月の梅雨前線豪雨で鉄道や国道が通行止等の被害が発生した現地において、その復旧状況の説明を行ったものです。

当日は、民国連携事業で実行中の「賛川特定流域総合治山事業」を市議等十四名の方々に川瀬署長より木曽署の概要と



治山事業の現地説明の様子

間伐等の必要性を、中村治山課長から平成二十年度から開始した事業内容と国有林の進捗状況、将来計画を説明し、また、長野県松本地方事務所林務課津田治山係長より、県の取組と計画の説明をしました。

参加者からは、「施工中の治山現場を見学するのは初めてで、急傾斜で大変危険な箇所です。工事をしてほしい」「これからも、地域の安心・安全な暮らしを守るため、治山事業を推進してもらいたい」などの意見が出されました。

「森林ボランティア・NPO連携推進会議」を開催

「指導普及課」「木曽森林環境保全ふれあいセンター」十月二十三日～二十四日の

二日間、中部森林管理局管内（長野、愛知、富山、岐阜各県）で活動している森林ボランティア団体・NPOが一堂に会して、団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民の皆さんに、国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的とした「森林ボランティア・NPO連携推進会議」及び関連行事を長野県松本市のアルプス公園で松本市の後援により開催し、森林ボランティア団体やNPO等、十六団体（四十九名）と局署等の職員、合わせて総勢七十一名が参加しました。



たのしく「ウッディ福笑い」

一日目は、「松本市山と自然博物館」館長の丸山潔先生による『長野県における蝶類の動態について』と題した講演会を行い、蝶の魅力や最近増えている蝶・減っている蝶、生息環境の整備の重要性など時折、貴重な映像やデータを交えながら熱心に講演いただきました。

二日目は、自然とのふれあいや、森の大切さや役割、自然の恵みを使った遊びや体験、また、森林ボランティア・NPO団体等の活動や取組について、理解を深めていただくことを目的に、一般市民を対象にワークショップを展開するイベント「森・ふれあいフェスタ」自然と遊ぼう 森に学ぼう」を開催し、多くの親子・家族連れが会場であるアルプス公園を訪れ「ウッディ福笑い」「竹とんぼ作り」「森の???探し」「かんなくずプール」など九のプログラムに、延べ約三百名の一般市民の皆さんが参加しました。



かんなくずプールで喜んで

多くの市民を迎えるスタッフの意気込みも大変強く、懇切丁寧に接する姿が印象的で、会場全体も子供達の笑顔と笑い声が飛び交い、親子・家族揃って、終始和やかに、そして元気に各プログラムを体験している姿が見られ、大変活気に溢れていました。

後日、県外から訪れたご家族から、感謝のメールが届くなど、目的が達成できたと感じられるイベントとなりました。

なお、今回の開催に当たっては、森林ボランティア団体等の主導で四回の実行委員会を行い、実施内容やイベント種目について、検討を重ね準備をしてきました。また、愛知県の「名古屋シティ・フォレストクラブ」、岐阜県の「裏木曾古事の森育成協議会」、長野県の「NPO法人やまぼうし自然学校」の各代表の皆さんの協力を得ながら実施することができました。

各地からのたより

治山工事現場へ

太陽光発電システム導入

「CO₂削減、地球温暖化対策」

「伊那谷総合治山」長野県飯田市の北西部、風越山から中央アルプス南端一帯は、飯田市の主要な水源地ですが、ぜい弱な地質による山腹崩壊等が激しく、その重要性から民有林直轄治山事業、森林整備が行われています。

このうち、割沢地区における治山運搬路の新設工事現場では本年度、工事中期間中設置する仮設事務所へ太陽光発電システムを導入し、CO₂削減、地球温暖化対策を進めています。

従来の仮設事務所では、発電機を設置し、必要な電力を賄っていました。

しかし、排気が事務所内に流入することにより良好な環境下で業務ができないこと、現場周辺の自然環境への配慮から、自然エネルギーを利用した太陽光発電システムを導入しました。

これにより、従来の発電機使用による電力供給に比べ、十年間で約七トンのCO₂の削減が可能となるとともに、発電システム設置の際、電力需要に最低限度応える仕様とすることで、低コストでの設置を実現しています。

この工事請負会社では、太陽光エネルギーの利用可能な工事現場へのシス

テムの導入だけでなく、LED蛍光灯の導入をはじめとする省電力化、発電システムの改善や高出力化の検討等、地球温暖化対策への取組を予定しています。

今後、このような活動が広がりを見せ、地球温暖化防止へ寄与していくとともに、さらなる技術の応用が期待されます。



導入した太陽光発電システム

契約者同士が集い、語り合う場

「FFG交流会の開催」

「北信署」十月十七日、FFG（ファミリー・フォレスト・ガーデン）の契約者とその家族を対象とした「FFG交流会」をカヤの平自然休養林内の法人の森林「長寿の森林」において開催しました。

当日は、二十五名が参加し、インストラクターの案内で森林散策及びきのこ狩

りを楽しみました。標高が一、五〇〇に近いカヤの平は、朝方非常に冷え込んでいましたが、徐々に日差しが顔をだし、気がつくとき秋晴れとなっていました。

参加者は、鮮やかに紅葉した林内を二時間程歩きながら、必死にきのこを探していました。残念ながら今年はきのこが不作のため、期待する程の成果を上げることはできませんでしたが、「天気が良く、紅葉が綺麗で満足できた」「他の参加者と交流する機会がなかなかないのでとても貴重な時間だった」といった意見・感想が出されました。



秋晴れのもと全員で記念撮影

各種イベント」続々開催

「岐阜署」秋も深まり各地で収穫の声が聞こえるなか、下呂市小坂町において十月十八日に「アームレスリングとふるさとフェスティバル」が、また、二十四日（二十五日には、岐阜市において「森と木とのふれあいフェア」が開催され、岐阜森林管理署は国有林のPRと、森林の知識を広げるために、木工クラフト教室などで参加しました。

両イベントとも、天候にも恵まれ、多勢の来場者で会場も賑わうなか、毎年岐阜署ブースを楽しみに来る家族も多く、長い順番待ちができるほどでした。

木工クラフトでは、子供達が自分で考え自由に作ることを基本に作成していましたが、中には思わず口や手を出す親もあり、親子それぞれふれあいながら作品を作っていました。



来場者で賑わう当署ブース

第5回森林ふれあい講座

『木曾ヒノキ備林の散策』

「名古屋」 十月二十四日「木曾ヒノキの美しい森林を散策し、名古屋城本丸御殿資材伐採跡地を見学しよう」を名古屋市の熱田生涯学習センターと共催により東濃署加子母裏木曽国有林で開催し、抽選で選ばれた十八名が参加しました。

秋色に色づいた山々を見ながら木曾ヒノキ備林に到着したところ、カモシカが参加者をお出迎え、普段都会で生活している参加者から一斉に歓声があがりました。

当日は、東濃署職員の案内により木曾ヒノキ備林の歴史や斧を使った古来からの伝統的な伐倒方法「三ッ緒伐り」の説明などを受けながら、伊勢神宮の式年遷



「三ッ緒伐り」の説明に聞き入る参加者

宮御用材、名古屋城本丸御殿用資材の伐採跡地などを見学しました。

見学後、参加者からは「普段行けない貴重な場所に訪れることができて感激しました」「丁寧な説明で勉強になった」「新鮮な空気を吸って気持ち良かった」などの意見が出され、秋の森林を満喫した一日となりました。

名古屋城本丸御殿の復元は、名古屋開府四百年を迎える平成二十二年に玄關の一部が一般公開の予定となっています。

藤前干潟で森林の役割をPR

「名古屋」「藤前干潟ふれあいデー」が名古屋市港区の藤前干潟にある環境省施設「稲永ビジターセンター」と「藤前活動センター」において、生物多様性条約第十回締約国会議（COP10）のパートナーシップ事業として、名古屋市で来年開催されるCOP10の開催時期に合わせ、十月二十四日～二十五日の二日間にわたって開催されました。

この藤前干潟は、伊勢湾奥部で唯一残されている大規模な干潟で渡り鳥の中继地として国際的にも重要とされ、平成十四年に「国際的に重要な湿地」としてラムサール条約湿地に登録されたところ

です。
当ふれあいデーへの名古屋事務所の係わりは、平成十八年からで、山と海、そ



作った作品を持って記念撮影

の間にある干潟が自然の中の重要なサイクルの一つととらえ協力出展してきました。

今回、名古屋事務所では、ヒノキ間伐材を使った丸太切り体験と間伐の重要性についてのDVD放映、「美しい森林づくり」への参加を呼びかける名古屋シティ・フォレスト事業への隊員募集チラシ配布、森林の働きや重要性についてのパネル展示を行いました。

両日とも好天に恵まれ、当事務所の出展コーナーには小学生や家族連れを中心にたくさんの方が訪れ、切ったヒノキ丸太の香りに「ああ良いにおい」と感激しながら、鉛筆立てや壁飾り、コースター作りに親子で楽しんでいました。

国産材利用推進功労者への感謝状贈呈式

感謝状贈呈式

「販売課」平成二十一年度国産材利用推進功労者への感謝状贈呈式を、十月十四日、木曽官材市売協同組合入札会場において土場活用委託販売と併せて行いました。

これは、当局管内の国有林材の積極的な活用と森林資源の利用推進に貢献された方への感謝の意を表し、感謝状を贈呈するため「木づかい推進月間」が展開されている十月期に合わせ、贈呈式を開催しているものです。今回は、都合により受賞者全員の参加とはなりませんでしたが以下の七社の方々に感謝状を贈呈いたしました。



受賞されたみなさん

中部森林管理局長感謝状受賞者一覧

感謝状 贈呈者	会 社 名	代表者名	住 所	郵便番号	電話番号
森 林 管 理 局 長	飛騨高山森林組合	代表理事組合長 道脇 敏彦	岐阜県高山市清見町三日町 187番地1	506-0102	0577-68-2221
	白鳥林工協業組合	代表理事 美谷添里恵子	岐阜県郡上市白鳥町大島 1546	501-5124	0575-82-2127
	丸ト木材市売(株)	代表取締役 松下 恒文	愛知県小牧市上末字久治面 2488	485-0822	0568-77-8911
	(株)勝野木材	代表取締役 勝野 智明	長野県木曽郡南木曽町読書 1750	399-5301	0264-57-2532
	(株)西村木材店	代表取締役 西村 仁雄	三重県松阪市郷津町186	515-0002	0598-51-2761
	名古屋国有林材 協同組合	代表理事 梶浦 好弘	愛知県名古屋市中川区山王 1-4-12	454-0011	052-321-7902
	(有)河合材木店	代表取締役 河合 貞雄	愛知県名古屋市中区松原 3-2-16	460-0017	052-321-3173



上ヶ洞森林事務所班員

職場の安全は

家庭から

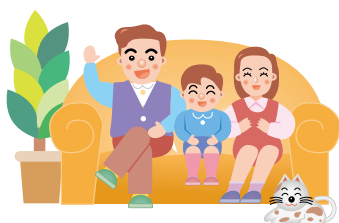
「飛騨署上ヶ洞森林事務所班」当班の作業現場は、岐阜県高山市の東部で、北を秀峰乗鞍岳、南を霊峰御岳に挟まれた高根町と朝日町を管轄する三つの森林事務所（上ヶ洞、秋神、中洞）の国有林です。

班員は三名（内OB臨時一名）で、主な作業は、林道維持修繕作業、収穫調査、境界巡検などを実行しています。我が班のモットーは「家庭が明るくなければ職場も暗くなり、安全が保てない。楽しい家庭と明るい職場であってこそ安全に楽しく仕事ができる」を合い言葉に

ミーティングをこまめに行い日々安全作業に取り組んでいます。

昨年からは、十二月からの約半年間、高根町内のチャオ御岳スノーリゾートスキー場で受託事業に従事しています。これまで、冬山事業は保育間伐や枝打作業を主に行ってきたことから、初めてのスキー場受託事業で不安もあり、慣れない接客や施設整備等の作業で最初は大変でしたが、全員無災害で無事に終了することができ、終了後はスキー場からも、「よく働いてもらえました」と感謝されました。

今年ももうすぐ受託事業が始まりますが「職場の安全は家庭から」を合い言葉に、各人楽しい家庭づくりに努め、職場でのチームワークを大切に健康で怪我をしないよう一丸となって職務に取り組んでいきたいと考えています。



行事・会議等の予定

◎森林計画等検討会

12月17日 長野市

◎森林ふれあい講座

12月12日 愛知所管内

八ヶ岳



「南信署」八ヶ岳は、長野県と山梨県の県境南北約三〇^{キロメートル}に峰を連ね、南は編笠岳、北は蓼科山を抱き、夏沢峠を境に北から蓼科山、北八ヶ岳、南八ヶ岳の三つのエリアに分けられ、全体は八ヶ岳連峰と呼ばれています。

八ヶ岳連峰の北に位置する蓼科山は（標高二、五三〇^{メートル}）別名「信濃富士」「諏訪富士」とも呼ばれ円錐形の美しい山体をしています。

北八ヶ岳エリアは、天狗岳（二、六四六^{メートル}）、縞枯山（二、四〇三^{メートル}）、北横岳（二、四七三^{メートル}）などの苔むした針葉樹林の黒い森や、大小様々な池が点在し神秘的なムードを醸し出しています。また、一〇〇人乗りのロープウェイがあり、夏は登山、冬はスキーと年間を通じて観光客が楽しめる場所となっております。

南八ヶ岳エリアは、八ヶ岳連峰の主峰である赤岳（二、八九九^{メートル}）、百名山

の八ヶ岳とは赤岳のことを指しています。権現岳（二、七一五^{メートル}）、硫黄岳（二、七六〇^{メートル}）などが代表されるように、北八ヶ岳の神秘的なムードの山と違い荒々しい岩峰が連なり、本格的な登山コースが多く、稜線にはコマクサに代表される高山植物が多く生育しています。

八ヶ岳連峰には、八ヶ岳由縁の昔話があります。大昔富士山の女神の浅間（せんげん）さまと、八ヶ岳の男神の権現（こんげん）さまが背くらべの話があり「二つの山のでっぺんに、長い樋を渡し、水を流したらどんなものか。水は高いほうから、低いほうへ流れていくはずだ」ということで、木曾の阿弥陀如来さまは二つの山に樋を渡し、水は、富士山のほうへと流れていきました。大昔は、富士山よりも、八ヶ岳のほうが高かったのです。

八ヶ岳は得意になりましたが、気の強い富士の女神さまは、くやしくてなりません。思わず八ヶ岳の頭を、ごつんと、なぐってしまいました。すると、八ヶ岳の頭は八つにわれてしまいました。との民話がありますが、昔から「八」という数字は「たくさん」をあらわしており、「八百屋」「八百万の神」「うそ八百」などに代表されるとおり八ヶ岳もたくさん山々が連なっていることを表しているのかもしれない。

是非みなさんも、たくさん山がある八ヶ岳を登ってみてください。

◆アクセス

○公共交通機関を利用した場合

J R 中央線茅野駅で下車し、いずれも駐車場まで約一時間

蓼科山は、大河原駐車場から徒歩約二時間一〇分



蓼科山から南八ヶ岳を望む



観光客でにぎわう北八ヶ岳の坪庭周辺



冬の蓼科山（2,530^{メートル}）



八ヶ岳の主峰 赤岳（2,899^{メートル}）

北横岳は、ピラタス蓼科ロープウェイ駐車場からロープウェイで七分、徒歩一時間
赤岳は、桜平駐車場から徒歩六時間